

港区立港南小学校  
令和5年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」は、内容を理解しながら聞くことに課題がある。</p> <p>・「読むこと」については、思考力・判断力を問われる「活用」の項目に課題がある。</p> <p>・「書くこと」は、問いに対して指定された題意や字数と異なる形で書いてしまう児童が多い。また、文章の構成を考えて書くことにも課題がある。</p> <p>・当該学年の前の学年までに配当されている漢字は、読む方はできているが書くことに課題がある。</p>	<p>・思考ツールを用いたり、対話型のスピーチ等を行ったりすることで、自分の考えを的確に表現できるようにしていく。</p> <p>・書く活動や伝え合う活動を日常の中でも繰り返し、定着を図る。</p> <p>・授業の中で語彙を増やす、辞典を活用する、漢字の小テストを定期的に行い漢字の定着を図る等、基礎・基本を大切にしていく。</p> <p>・書くことを短冊にまとめ、文章の構成を考えた上で書かせるようにする。</p> <p>・全学年でも詩の朗読をしたり、学年の実態に合わせて俳句や短歌づくりに取り組んだりすることで、言語感覚を養うとともに、言葉を尊重する態度を養う。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>(1)社会生活について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握したりして、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりする力を養う。</p> <p>(3)社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<p>・自分たちの生活とかけ離れた社会的事象に対する学習に対する意欲が低いことが課題である。</p> <p>・方角や地図記号など、地図を読み取るための基本事項が定着していない。</p> <p>・写真やグラフ等の資料からの分析や問題解決のための話し合い活動が円滑に進まないことに課題がある。</p>	<p>・どの单元においても意欲向上を目指し、身近な社会的事象を基にした資料の提示や疑似体験などを有効に利用する。</p> <p>・地図に関する知識・技能が低いので、ワークテストに取り組みせたり、比較させたりしながら、継続して学習を展開していく。</p> <p>・資料を分析したり、他者と自分の考えの相違に気付かせたりするなど応用力を高める指導を行うため、意図的に学習計画に取り入れていく。</p>

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査, 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技術を身に付けるようにする。	・2～6年全体を通して、加減計算(特にひき算)に課題がある。 ・5年は「小数の加減」に課題がある。 ・6年は「分数の加減」より、小数の加減に課題がある。	・くり上がり、くりさがりをしっかり書かせ、「引けない時は左の位から1借りてきて、10繰り下げる」と言葉で定着させる。 ・具体物、半具体物を活用し、視覚的な理解を促す。
	(2)日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見出し総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す目的に 応じて柔軟に表し有する力を養う。	・文章問題では、文章の流れから線分図を描くことに課題があり、立式できない事がある。 ・文章問題の順番を理解せず、たされる数、たす数の順番に立式できない。	・テープ図や数直線、線分図など学年に応じて適切な図の使い方を指導し、自分の考えを説明する際に活用できるようにする。 ・図、式、言葉などの数学的表現を関連づけて説明できるようにする。できない場合は教師から示すなどしながら、理解を深めていく。
	(3)数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	・かけられる数、かける数の一つ分かけるいくつ分で考えることができず、1 当たりの単位で計算することに課題がある。	・単元の終末に学習したことを活用して解く問題を入れるなど、単元で学習した見方・考え方を活用させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	(1)自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	・「物質・エネルギー」領域と「生命・地球」領域の理解の定着が低い傾向が見られる。 ・器具を用いて正しい手順で観察や実験を行うことはできるが、観察したものや器具の用語を覚えることが難しい。	・観察、実験などの技能を高めるために、生物や植物の学習では、探したり育てたりする活動をしっかりと取り入れていく。 ・観察、実験などの技能を高めるために、実験に使う器具の使い方を丁寧に指導したうえで、実験器具に触れる機会を増やす。
	(2)観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。	・実験結果をまとめることはできるが、それを問題と照らし合わせ結論付けることに課題がある。	・実験方法の立案を見童自身が行う機会を多く授業に取り入れる。
	(3)自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	・細かくに生き物の様子を観察しているが、それが終わった際に継続して世話を続けることやどうなっているのかと観察することに課題がある。	・実験結果から分かったことや気づいたことを表現する時間を十分に取り、発達段階に合わせて話型を示す。結果から得た、疑問などを解決する時間をとる。 ・実験が難しい単元では、ICTを効果的に活用して見童の理解を深めたり、継続して生き物を育てるなど、日ごろから自然に触れ合う機会を増やしたりする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<p>(1) 具体的な活動や体験を通して、感じたり気付いたり、わかったり、できるようする。</p> <p>(2) 生活の中で気付いたことやできるようになったことを使って、繰り返し考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする力を養う。</p> <p>(3) さまざまな活動を通して、感じたことや気付いたことを生かして、より良い生活を営もうとする態度を養う。</p>	<p>・国語との連携を図り、観察カードの書き方を学ぶことで、伝えたいことを伝え合うことができた。一方で、良い気付きがあるにもかかわらず、うまく表現できていない子もいた。</p> <p>・活動の時間を確保し、友達と一緒に活動することで、自分で思考したり調べたりできた。表現の方法も観察カードの他に、ICTを使うなど、友達と協力して行うことができた。友達と一緒に活動することで、人任せにしてしまう児童もいた。</p>	<p>・本校の児童がどのような生活経験や体験をしてきたのかを的確に把握し実態をつかむ。</p> <p>・地域の特色、児童が接することのできる物的・人的資源を把握する。</p> <p>・単元の配置と時間配当、各教科との連携を図るための指導計画を立てる。</p> <p>・活動では、思考する→試す→工夫するを繰り返し行えるような場と時間の確保をしていく。また、表現する場の設定をする。</p> <p>・一人ではできないことは友達と協力して行うことで、新たな気付きが生まれるようにし、友達と協働することのよさを実感できるようにする。</p> <p>・生活科での気付きを次の学習でも生かせるように、児童の発言、記録カード、作品、写真等を用いて振り返りをする。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>・歌唱表現について、自然で無理のない歌い方で歌うことができる児童が多い。音の重なりや思いに合った歌い方の工夫ができるようにする。</p> <p>・器楽表現について、学年が上がるにつれて技能差が大きくなる傾向にある。基本的な楽器の奏法を身に付けるとともに、合奏活動を通して、技能面が伸びていくようにする。</p> <p>・音楽づくりについて、打楽器でリズム創作をしたり、既習の楽器を使って旋律づくりをしたりすることができる。音楽の仕組みの興味関心を高めながら活動を継続していく。</p> <p>・鑑賞について、音楽の特徴に気付いて鑑賞することができる。鑑賞曲のよさを他者へ伝える言語活動を活発にしている。</p>	<p>・歌唱表現では、互いの歌声を聴き合い、歌詞の内容や情景のイメージをふくらませて、強弱の工夫をしていく。</p> <p>・器楽表現では、多様な楽器の音色や演奏の仕方について興味・関心を高め、楽器の基本的な奏法を反復練習していく。個人的な技能ではなく、重奏や合奏を通して、音を合わせることで楽しみながら演奏する。</p> <p>・音楽づくりでは、友達と関わりながら発想を得たり、響きの組み合わせを考えたりすることで、創造する力を身に付けていく。</p> <p>・鑑賞では、音楽を特徴付けている要素を取り上げて、曲のよさを見つけながら鑑賞していくとともに、音楽の特徴から感じ取ったことを紹介文などにして、他者へ伝えることができるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<p>(1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。</p> <p>(2)造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>・低学年では用具や机上整理など、正しい使い方の理解が低い児童が見受けられるが、学年が上がるにつれ材料や用具を正しく使い、表現することができる児童が多くなっている。しかし、自分の表したいことなどを考えついたり、思いをもって表現したり、工夫や考えを深めて活動を充実させることが苦手な児童がいる。</p> <p>・鑑賞において、友達の作品などからよさを読み取ることはできるが、言葉で自分の考えを表したり、発表したりすることが不得意である。</p>	<p>・低学年から用具の正しい使い方や置き方、留意点などを共通して指導することで、理解の定着を図る。</p> <p>・参考作品を提示したり活動中に児童の作品を見合う場を設定したりすることで、自分の作品の表し方に工夫を取り入れたり、考えを深めたりして、創造的に表現ができるように促す。</p> <p>・児童一人ひとりの学習状況を見取り、個に応じた指導支援を行う。</p> <p>・学習のめあてを視覚化し、見通しをもたせる。</p> <p>・鑑賞活動や校内掲示を計画的に行い、作品を観合うことを日常に取り入れ、豊かな発想力を身に付ける。</p> <p>・鑑賞カードやスクールタクトを活用し、作品のよさを伝え合う対話的な活動の場を取り入れる。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<p>(1)家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>	<p>・知識・技能に関しては、個々の経験の差が大きい。初めて取り組むことが多く、見通しをもって活動できない。</p> <p>・生活の中にある課題に目を向け、さまざまな解決方法を考えることが難しい。</p>	<p>・「生活の営みに関わる見方・考え方」を働かせるために、成果や改善点、自分の家庭ではどのような実践ができるのか等の視点で、授業ごとの振り返りを必ずさせる。</p> <p>・調理の学習では、個々の実践力を高めるために一人調理やペア調理の機会を増やし、経験できることの多い実習にする。</p> <p>・安全面に注意が必要な学習(ミシン・裁縫等)では、必ずペアで教えあい学習をさせ、個人の作品製作だけを目標とするのではなく、協力して安全に実習が進むことを意識させる。</p>

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト, 学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに, 基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け, その解決に向けて思考し判断するとともに, 他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し, 楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果によると, 持久力, 投力の平均値が低く課題がある。また, ポールを扱うことに慣れていない子が多いため, 低学年から高学年にかけて, 運動の基礎的な技能を系統的に身に付けさせていく必要がある。</li> <li>・友達と学び合うことに前向きな児童は多いが, どのような視点で見合い, 伝え合えばよいか, より明確にしていく必要がある。</li> <li>・どの運動にも意欲的に取り組む児童が多いが, 単元によって, 意欲に差がある児童が各クラスに数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の特性を味わわせるために, 運動の行い方や規則を工夫することで, 指導法の改善を図る。</li> <li>・学習資料を活用し, めあてに対する振り返りを重点的に行うことで, 毎時間の指導改善と児童の学習改善を図っていく。</li> <li>・運動に意欲的でない児童や運動が苦手な児童には, 個別に声をかけたり, 配慮したりすることで, 運動にすすんで取り組むことができるようにする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<p>(1) 日本語と外国語との違いを理解し, 外国語の音声や文字, 文構造や基本的な表現に慣れ親しみ, 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</p> <p>(3) 異文化に対する理解を深め, 他者に配慮しながら, 主体的に外国語でコミュニケーションをとろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低・中学年では, 「聞く・話す」が基本であるが, 活動が楽しくなりすぎて, 静かに最後まで聞くことに課題がある。</li> <li>・中学年になると, 意識的な個人差が出始めている。積極的に活動する児童と, 失敗を恐れて発表に消極的な児童の差が激しい。</li> <li>・中学年では, 自分の考えや思いを表現することに苦手意識をもつ児童が多い。また, 声の大きさや速さ, 表情などに気を付けながら, 相手に分かりやすく伝えることを意識することができる児童が少ない。</li> <li>・高学年は, 1年生から国際の授業を行っているため, 英語を「聞く」力は高い。一方, 学習した単語や表現を積み上げてきておらず, 学習した表現を使って, やり取りをするこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3, 4年生は講師とNT (Native Teacher), 5・6年生は専科とNTで指導を行っている。</li> <li>・低学年では, 歌やゲーム, 友達と関わる活動などを多く取り入れることで, 楽しみながら英語を学習できるようにする。</li> <li>・NTと担任のデモンストレーションを多く取り入れ英語を聞くことに慣れる。写真やイラストなどを用いることで, 分からない内容でも予想しながら聞けるようにしていく。話す活動では, ペア活動を取り入れたり, プレゼンテーションを行ったり, 自分の考えや思いを伝える場を設定する。その際, 「大きな声」「アイコンタクト」「ジェスチャー」など相手を意識した発表を行えるように指導する。</li> <li>・言語活動でのテーマを児童にとって身近で興味深いものにする。</li> <li>・異文化を理解するために, 他国の様子がよく分かるような映像などを使い興味をもたせる。また, 様々な言語活動にNTにも参加してもらいながらNT とのかかわりを通して, 児童が異文化について考えられるように指導していく。</li> <li>・中学年では, 自信をもって自分の考えや思いを伝えたり, 発表したりすることができるように, 単語</li> </ul>

		<p>とに困難を示す児童もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年では、「話す(発表)」のように、人前で話すとなるとうまく話せない児童が多い。</li> </ul>	<p>やキーセンテンスの反復練習の時間を多く設ける。また、clear voice(明瞭な発音), listen carefully(よく聞くこと), eye contact(目線), smile(笑顔)の4つのコミュニケーションポイントを常に提示し、児童に意識付けを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年では、Teacher's Talkを多く取り入れることで、児童が英語を聞くことに慣れる時間を増やす。</li> <li>・児童にとって身近で興味深い単元目標や単元計画を設定し、授業を実施する。</li> <li>・児童がすすんで「伝えたい、話したい、聞きたい」と思えるような目的・場面・状況を明確にした言語活動を行う。また、Small Talkのように、ペアで活動する場面を多く設定する。</li> <li>・相手意識をもったやり取りや発表を意識させる。(はっきりした声、アイコンタクト、間の取り方等)</li> </ul>
--	--	---	--

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>(1)よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の心情を理解しようとして、自己の言動を客観的に振り返ったりすることが難しい。</li> <li>・複雑な気持ちを表現する語彙が少ない児童が多い。</li> <li>・臨機応変に対応するような活動場面や生活経験が少ない。</li> <li>・価値観について頭では大切だ、守らなければいけないと理解しているが、実生活とつなげたり自分ごととして捉えたりすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分事として考えさせたり、意欲や関心を向上させたりするため、導入部分で事前アンケートを活用したり、ICT機器を効果的に活用したりするなどの工夫をする。</li> <li>・児童が自己の生き方について考えを深められるように発問の精選を行い、価値理解と同時に人間理解や他者理解、最後には自己理解を深めていけるようにする。</li> <li>・物事を多面的・多角的に考えさせるために、話し合い活動を工夫して取り入れていく。</li> </ul>

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と関わる機会が少なく、自分の意見を伝えることや友達の意見に興味をもつことが難しいことがある。</li> <li>・集団への所属感が乏しく、自己中心的な思考や行動をしてしまうことがある。</li> <li>・自分の思いや願いを中心に、合意形成を図ることはできるが、一部の児童のみで話し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス遊びや学級活動の機会を増やし、帰属意識を高める。</li> <li>・当番や係活動で集団としての意識を高める。一人一人に役割があるようにし、みんなの役に立っている喜びを味わわせる。</li> <li>・学級会、係活動などで、自分の役割を理解させ、責任をもって仕事をするを意識させる。それぞれが自分の役割を全うすることで、学級全体がよりよくなっていくことを実感できるようにする。</li> </ul>

	<p>定したりすることができるようにする。</p> <p>(3)自主的,実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして,集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに,自己の生き方についての考えを深め,自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>合っている様子がある。</p> <p>・学級会や行事に向けて,事前に目標を立てることはできるが,目標の達成に向けて継続的に取り組むことが難しい児童も多くいる。</p>	<p>・学校行事にけじめを持った態度で参加する雰囲気を作る。学年や学校全体で行事が行われることを実感させ,大きな集団の一員であることの自覚を高めさせる。</p> <p>・フレンドリータイムで,事前に学年に応じためあてをもって取り組ませることで,異学年交流の活動を充実させる。</p> <p>・行事の前には,めあてをたてる時間を十分に確保する。また,自己や学級全体の取組を振り返る機会を定期的に設けることで,改善できるようにする。また,できたことを価値づけることで,意欲をもたせる。</p> <p>・学級会のすすめ方を伝え,実践することで,他者の考えを知ったり,自分の考えを伝えたりする場を充実させる。</p> <p>・キャリア教育を充実させる。キャリア・パスポートを学期に1部程度作成し,ファイリングすることで,6年間を通して自己の生き方についての考えを深められるようにする。</p>
--	--	--	--

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>(1)課題の解決に必要な知識・技能を発揮するとともに,地域のよさや特徴を見つめ直し,探究的な学習のよさに気付く。</p> <p>(2)地域の実社会・実生活の問題から課題を見だし,その解決に向けて情報を集め,情報を整理したり分析したりすることで自分の考えをもち,理由を明確にしてまとめ,相手や目的に応じて,表現する力を身に付ける。</p> <p>(3)主体的・協働的に学習に取り組むとともに,友達と互いのよさを生かしながら,持続可能な社会を実現するために探究的に学習を進めることを通して,自己の生き方を考えたり,すすんで社会に参画しようとしたりする態度を養う。</p>	<p>・単元に基づく概念的知識及び探究的学習の技能を系統的に身に付ける必要がある。</p> <p>・地域の人材・教材開発に努め,児童の思いや願いに合わせた単元づくりを行っているが,児童が自ら課題を設定する力を意図的に身に付けていく必要がある。</p> <p>・友達と合意形成をしたり,建設的な話し合いをしたりすることが苦手である。</p>	<p>・児童の課題意識が連続発展できるような支援を重視する。</p> <p>・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。</p> <p>・探究の学習過程(課題設定,情報収集,整理分析,まとめ表現)が繰り返されるような単元づくりを行う。</p> <p>・資質・能力面での教科との関連的な指導を行う。</p> <p>・学年間で学級の学習状況などを定期的に共有できるようにする。</p> <p>・OJTを行い,総合的な学習の時間の進め方について共通理解を図る。</p> <p>・単元で活用した資料や情報,指導案等は単元ごとにまとめて引き継ぐ。</p> <p>・専科教員やスクールサポートスタッフを活用するなど,校内の支援体制を確立する。</p>

